

種智院大學 同窓會報

第15号

平成5年8月31日

京都市南区壬生通八条下る東寺町545
種智院大学同窓会

土宜法龍猯下渡米百周年記念

☆ ☆ ☆

平成5年度 同窓会総会開催

平成5年6月29日(火)午後1時30分より種智院大学同窓会の平成5年度総会が開催。あいにくの雨であったが、会場には、一年ぶりの再会を待たすべく、40余名の会員の方々が出席された。「同窓会報」第14号で、池田瑩輝会長から提案されたように、今年は、本学の三代目の総理(学長)である土宜法龍猯下がシカゴで開催された万国宗教大会に出席されて、百年目にあたる。その偉業を記念して、平成5年度総会では、土宜法龍猯下の墨跡展を企画。これまでの総会とは若干趣きの異なる、ユニークな総会となった。

総会は、例年どおり、物故者慰霊法要から始まった。経頭は、今総会最長老の東野学明師。このあと、会長池田瑩輝猯下より開会の挨拶があり、一堂に集められた土宜法龍猯下の墨跡を前にして、渡米百周年の遺徳にもふれられた。また、大学の学生諸君も講演に参加して、大学と同窓会が一体となって、より意義深い会に今後していくことを願う旨、述べられた。

次に、来賓代表として、種智院大学々長今井圓明猯下より、大学の現況を含めて、ご挨拶があった。このなかで今井学長は、校舎増改築以後、大学冬の時代を迎えるにあたり、いかにその特色を打ち出し、ユニークな大学として生き残るのが今、本学に求められるところであること、そのためには内容の充実、とりわけ教学面でのいっそうの発展をはかるために、カリキュラム等の見直しや大綱化を準備していることが述べられ、より意義のある学園づくりを目指すことを明らかにされ、これら一連の大改革に意欲的にとりくむ決意を披露された。

つづいて議事に入り、座長に副会長の手嶋千俊師を満場一致で選出した。手嶋座長のもとで、まず一号議案として、事務局より平成4年度活動報

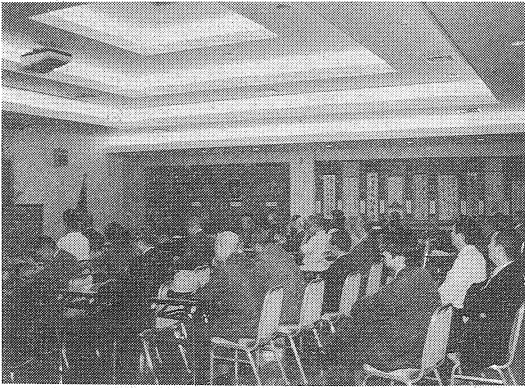
告、ならびに平成4年度決算案が報告された。これにたいし、東田教範師(山口・昭和24年)より質問があり、決算において、会費収入が当初予算を下回る結果となっていることが指摘された。ここで東田師は、会費収入の減少化は、同窓会活動の低迷化の原因となり、この現状は憂うべきものであると述べられた。とくに、先般の勧募活動で盛り上がった気運が、校舎建設竣工以後、中休み状態にあると分析され、この現状打開にむけて、その取り組みの如何を糺されたのであった。

これにたいし、事務局として、会費納入の促進のために、会報の発行を守っていくことが述べられたが、それ以上に、具体策はないのが実状であった。

また、北村議臣師(新潟・昭和30年)から、受取り利息も当初予算を下回っていることが指摘され、御自坊の運営上から得られた御経験をもとに、利息収入の増加をはかるべきことが意見として出された。

これらの議論をふまえ、手嶋座長から、同窓会のより健全な運営のためにも、今後の活動の強化をはかるべく、会員相互のよりいっそうの連帯と





緊密な連絡が必要であることが示され、この方向を総会にて確認し、平成4年度の事業報告、決算を承認した。

つづいて、平成5年事業計画、予算案について事務局から報告。今年度は、「会報」第14号にてお知らせしたように、本学の第三代の総理(学長)であった土宜法龍猯下の渡米百周年を記念する行事を計画。本日、23点の墨跡・肖像画・トランクが展覧されているが、そこには、本行事に御賛同頂いた鎌倉・東慶寺様より、シカゴ万国宗教者大会に参加した日本代表団の団長であった釈宗演猯下の墨跡が5点も展覧されている。誠に盛大な行事となったことが報告された。

また「会報」の発行(年2回)、さらに名簿作成への準備作業の開始も報告され、よりいっそう活発になされるべきことが確認された。同様に、予算案についても承認された。

なお、昭和63年12月に発行された『同窓会名簿』について、発行以来5年が経過し、かなりの異動があり、また、新たに卒業された方も多くなったことで、再発行の計画が提案された。次年度総会において予算措置を講じ、次々年度発行を予定するというものである。昭和63年度版『同窓会名簿』について、不備な面も多くあるとの指摘があり、今後、名簿発行のため、さまざまな御提案を頂きたい旨、事務局から会員の皆様をお願いをしていくことになった。

次に、平成5年6月、総本山仁和寺門跡、真言宗御室派管長に御就任された同窓会副会長・吉田裕信猯下にたいし、同窓会顧問に推戴する旨の提案が、幹事会の確認をうけて、座長・手嶋千俊師よりなされた。この議案について、満場一致で了承。御来席された吉田裕信猯下から、御礼の御挨拶もあり、一同、吉田裕信猯下の御就任を心から祝福したことであった。

以上によって、平成5年度の総会の審議が終了し、つづいて記念写真の撮影があり、いよいよ記念講演が開始された。

土宜法龍猯下の渡米百周年を記念する講演として、今年は池田瑩輝会長による「土宜法龍猯下の渡米百周年によせて」と、書家で、平成3年度の密教学芸賞受賞者である周藤苔仙先生による「土宜法龍猯下の墨跡によせて」の二題であった。

まず、池田瑩輝会長から、今般、土宜法龍猯下の渡米百周年を知る機会となったことから述べられ、池田会長が活躍されている世界連邦日本宗教委員会において、他宗派の方から、このことが提案され、わが真言宗の偉大な先覚者の御功業を何とか顕彰すべきではないかとの思いから始まったことが紹介された。そして、資料を調べていくうちに、1893年(明治26年)のシカゴ万国宗教大会の概要なり、土宜猯下の足跡が次第に明らかとなって、これにともない多くの方々から、さまざまな提案があり、ひとつの事が、これほどまでに大きな反響を呼んできたことに、驚き、それだけにまた関心の高さがあったことがわかったこと等、多くの新しい側面を発見できたことが語られた。

また、今回『六大新報』に土宜猯下の墨跡を開催する旨、記事を書いて頂いたが、早速、大阪の宜真高等学校の岡田先生から連絡があり、校名が土宜猯下の命名によるものであり、その『宜真』の文字を書いた額が所蔵されているとのことであった。そこで是非展覧をと、お願いしたところ、御快諾頂いたことであった。また、同窓会の会員の方々からも、軸、額などをお寄せ頂いたこと、高野山からも霊宝館長の山口先生をはじめ、山内の寺院様からも御好意を頂いた。また高山寺様からは、渡米に利用されたトランクと額、軸の御出展があった。そして、渡米団長をされた臨済宗圓覚寺派管長であった釈宗演猯下の墨跡を、鎌倉・東慶寺様の御好意によって、ここに展覧できた。渡米団の陣容を知る上でも、大変貴重なことであった。こうした幅広い御好意に支えられ、土宜猯下の遺徳を顕彰することができた旨を述べられた。

以上、池田会長から、国際交流という現代の課題をふまえ、百年の歴史から未来へ展望する橋わたしが、この日の行事をとおして、つくられていくことが、呼びかけられたのであった。

次に、周藤苔仙先生の講演であるが、講演に先立って副会長手嶋千俊師より、周藤先生の紹介があり、書家として、また教化活動の面からも、宗

門に多大な功績を残されてきたことが紹介された。なお、周藤先生は、昨年5月に『究極の説法—密教の道・七十年—』および『書味閑談』の二冊を東洋出版(大阪市)により刊行されている。

周藤先生は、まず、書についての基本から説きおこされて、書の歴史や書の技法にも言及されるなど、日頃を見ることを通してしか接することのない書の世界を、体系的に説かれ、芸術としての書の意味を、わかりやすく、興味深く説かれた。また土宜猥下の墨跡については、多くの作品があると聞いていたが、このように一堂に会することになったのは、はじめてのことでありましょうと述べられ、今回の同窓会の記念行事が、大変に意義深いものであることが、あらためて確認された。その墨跡の特色としては、独自の筆法であり、独特の書体をもたれており、釈文をつくることも容易ならざるところもある。そこに土宜猥下の書の世界というものが存在していたというべきではないか、と述べられた。

講演に引きつづいて、周藤先生は壇上から降りて今回の墨跡展に出展したひとつひとつの作品について、会員の方々とともに、綿密な解説を加えられ、釈文や、書体の味わい方について、懇切に説明して頂いた。

講演会に引きつづいて、バスで懇親会場の京都センチュリーホテルに移動。池田会長の開会挨拶、吉田猥下への花束贈呈、野口龍弘師の乾盃の発声で宴に移り、会員各師より近況が報告され、なごりつきないひとときを過ぎた。最後は、田中純應・洛南中・高等学校長より閉会の挨拶があり総会のすべての日程を終了した。

総会出席者(順不同・敬称略)

多田 隆信	野口 龍弘	東野 学明
手嶋 千俊	江坂 宗純	川村 俊朝
衣笠 丹章	木村 大廣	澤 実英
田中 実道	篠畑 俊成	法本 法文



今井 圓明	東田 教範	加藤 亮匡
前田 和連	田中 純應	吉田 裕信
生駒 研性	市橋 眞明	池田 瑩輝
足立 有教	加門 得勇	田井 秀戒
北村 議臣	手塚 節	英 真恵
棟広 照文	井上 亮淳	祝 宏友
北村 太道	津田 隆英	福島 尊光
嶋 裕海	有井 良随	都筑 大乘
国定 道晃	宮崎 幹大	北尾 隆心
恒松るり子	橋本江理子	宇垣 泰明
西田 義範	三澤伊知朗	沖津 祐照
[大学]		
宮崎貞三郎	宮城洋一郎	児玉 義隆

同窓会総会に参加して

恒松 るり子



私は急な思い付きで、同窓会総会に出席し、数多くの感銘を受け、卒業して10年近くたった現在、改めて「お大師さま」に感謝する

気持ちで一杯になりました。

総会のあった6月29日、京都は一日中雨降りでした。私は記念講演がどうしても聞きたくて、雨にもめげず大学に向かいました。

今の大学の校舎は、昔の面影が一部残っているものの、びっくりする程立派でした。

総会は、あの懐かしい色の黒い「お大師さま」に見守られながら始まりました。私は心の中で、「お大師さま、ただいま」と呟いたと同時に、目

頭が熱くなってしまいました。大学の現状について学長の今井圓明猥下から「お大師さま」の建学の精神に基づきながらの御説明に心の底から感動し、いま一度勉強したいという気持ちで、自然に湧き起こりました。同窓会の運営に関しては、先輩の皆様方の今日までの御苦労、身に染みて感じました。

私のお目当ての記念講演は、二つありました。

まず最初は、同窓会会長の池田瑩輝猥下の「土宜法龍猥下の渡米によせて」でした。私は同窓会報の第14号に池田猥下が書かれた「元本学学長土宜法龍猥下渡米百周年（シカゴ万国宗教大会）によせて」を興味深く読み、講演で更に土宜猥下の偉大さを知ることができました。本日（8月5日）の朝日新聞に偶然にも、土宜猥下の出席されたシカゴ万国宗教大会のことが載っていました。残念なことに、土宜猥下については書かれていませんでしたが、百年前の大会の様子が詳しく分かり嬉しく思いました。

最後は、書家でいらっしゃる周藤苔仙先生の「土宜法龍猥下の墨跡について」でした。まるで墨のよい薫りが漂うような、優しい先生のお人柄にも接することができ、私にとってこの講演は大変意義深いものになりました。

先生が、「昔、中国で『書』は六芸（礼・楽・射・御（馬術）・書・数）の中でも、精神修養として最も尊ばれたものである」と言われたとき、私は強い衝撃を受けました。私の悪筆を御存知の人には、絶対に信じて貰えないと思いますが、子供の頃、6年以上にわたって書道を習っていました。小学校5年生のとき、書道だけは精神修養のために一生続けていこうと決心していたのに、中学校1年生の夏に大きな壁に打つかり、心が苛立ち、筆を捨てました。あのときは、まだまだ子供で欲も精神力も体力も無かったこと、いま改めて気が付きました。

講演の後、周藤先生は土宜猥下の20数点にも及ぶ墨跡を、1点ずつ御丁寧に解説して下さいました。私はこのとき、先生の書家としての厳しさを垣間見ることができ、是非先生の『書』を拝見したいと思いました。

懇親会は土砂降りの雨の中、マイクロバスで移動し、京都駅前のセンチュリーホテルで行われました。学生のとき御世話になった神保先生に、お声を掛けていただき出席することにしました。私は御馳走を口に頬張り、先生や他の方々と一緒に

お喋りに夢中になっている間に、懇親会も御開きになりました。皆様方と少しお名残り惜しい気持ちで、小降りになった雨の中家路に就きました。

うとうしい雨さえも、「恵みの雨」と思える本当に充実した一日でした。

また後日、大先輩の東野学明先生から、スナップ写真を送って頂きました。先生、お写真ありがとうございました。

㊦ りくげい〔六芸〕○周代に士以上が必ず学ぶべき科目と定められた六種の技芸、すなわち礼・楽・射・御・書・数。（御＝馬を扱うこと）○古く中国で、士以上の学修すべきものとされた、礼・楽・射・御（馬術）・書・数の六種の技芸。『日本国語大辞典』より
(昭和59年卒業)

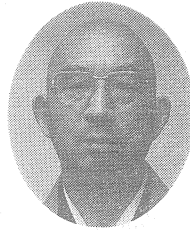
土宜法龍猥下墨跡展・出展一覧

(順不同・敬称略)

- | | | | |
|----------------|------|----|----------|
| (1)協賛・釈 宗演猥下墨跡 | | | |
| 東慶寺蔵 | 軸 | 5点 | (鎌倉市) |
| (2)土宜法龍猥下肖像画 | | | |
| 仁和寺蔵 | 軸 | 1点 | (京都市) |
| 満福寺蔵 | 額 | 1点 | (京都府綾部市) |
| (3)土宜法龍猥下所蔵品 | | | |
| 高山寺蔵 | トランク | 1点 | (京都市) |
| (4)土宜法龍猥下書状 | | | |
| 仁和寺蔵 | 額 | 1点 | (京都市) |
| (5)土宜法龍猥下墨跡 | | | |
| 宣真高等学校蔵 | 額 | 1点 | (大阪府池田市) |
| 長建寺蔵 | 額 | 1点 | (京都市) |
| 高山寺蔵 | 額 | 1点 | (京都市) |
| 蓮華寺蔵 | 軸 | 1点 | (京都市) |
| 東向観音寺蔵 | 軸 | 2点 | (京都市) |
| 高山寺蔵 | 軸 | 1点 | (京都市) |
| 地藏寺蔵 | 軸 | 1点 | (徳島県) |
| 高野山霊宝館蔵 | 軸 | 1点 | (高野山) |
| 報恩院蔵 | 軸 | 1点 | (高野山) |
| 無量光院蔵 | 軸 | 1点 | (高野山) |
| 西南院蔵 | 軸 | 1点 | (高野山) |
| 宝城院蔵 | 軸 | 1点 | (高野山) |
| 櫻池院蔵 | 軸 | 1点 | (高野山) |

以上23点、展観に御協力賜りました皆様方に謹んで御礼申し上げます。

仁和寺門跡に吉田裕信 猥下



6月23日、総本山仁和寺門跡に、吉田裕信猥下が就任。同月26日、第四十六世門跡として入山式が挙行された。吉田裕信猥下は、昭和24年、本学の前身、京都専門学校を卒業。龍谷大学を昭和27年に卒業し、御室派支所長、宗会議員等を経て、昭和61年から平成2年まで御室派宗務総長、仁和寺執行長に就任され、宗門の発展に尽力されてきた。同窓会では、監査を経て、平成3年より副会長。吉田裕信猥下は、大本山大聖院第七十六世座主であり、宗門内外にわたって広く活躍されてきた。仁和寺護持財団の評議員、監事。また青年布教師会の初代会長でもあった。宗門外では、宮島町仏教会長でもあり、教誨師として社会的活躍も著しい。こうした幅広い御功績により、仁和寺門跡御就任となった。(御写真については、本山協力委員、川井宏雄師の御協力を頂きました)

東寺派管長に藤田研道 猥下



6月23日、真言宗東寺派臨時宗会において、藤田研道猥下の管長就任が報告された。藤田猥下は昭和16年、本学の前身京都専門学校を卒業。昭和36年に吉祥寺住職となり、この間、ひかり保育園を設立し、愛媛県保育会々長、日本保育協会理事を歴任、四国八十八か所霊場会々長、民生委員、人権擁護委員等をつとめられた。これらの功績により、愛媛県功労賞、法務大臣賞、厚生大臣賞も受賞された。なお、東寺派では、10月25日に藤田猥下の管長就任祝賀会を開催予定。

(御写真については、東寺派宗会議員・石橋清純師の御協力を頂きました)

池田瑩輝会長、世界宗教大会に出席



1893年、シカゴで開催された万国宗教大会の百周年を記念して、日本でも記念行事が実施され、同窓会においても、土直法龍猥下渡米百周年の行事を実施した。そして、このたび、シカゴにおいて、百周年記念として世界宗教大会が開催される運びとなった。世界連邦日本宗教委員会の委員長として活躍されている同窓会長・池田瑩輝猥下は、この世界宗教大会より参加の招請を受け、8月31日に渡米することになった。また、同委員会顧問である藤田俊教師もこの大会に出席されることになっている。9月2日には、この大会において特別に意見発表を行い、こうした大会がより有意義なものとなるべく、そして平和を望まない宗教者はいないことをふまえ、すべての宗教に共通した祈りを提案することである。この提案は、すでに8月6日、9日の広島・長崎における世界連邦日本宗教委員会の会合で発表し、共通理解が得られたことから、シカゴの大会において提案することとなった。この折りの言葉は次のとおりである。

「世界が本当の平和となり、すべての人々が幸せでありますように！ この地球をひとつの家として、生きとし生けるものが共に生き、慈しみと、愛と、誠にみちた楽しい世の中となりませうように！」

>>>支部だより>>>>>>>>>>>>

大阪支部 役員会

3月26日(金)午後6時30分より、大阪市内「花心」にて開催。平成5年度総会にむけ、会計報告、役員改選等々について協議。12月の役員会で総会を4月27日(火)と決定し、その協議をさらに積み上げていくことを確認。

出席者(順不同・敬称略)

田中 実道	法本 弘文	見城 芳行
土屋 博秀	玉山 順彦	岩上 匡志
佐野 剛空	宮城洋一郎	

大阪支部総会

4月27日、5時30分より、大阪市内「南海飯店」にて開催。昨年12月以来つみあげてきた会計報告、役員改選等を主要議案とする総会となった。

総会は、支部長・田中実道師より、2年間の活動をふり返り、運営上の問題や今後について述べられ、大学より、宮城洋一郎氏から現況報告がなされた。法本弘文師を座長に選出して、議題に入り、会計の玉山順彦師より会計報告がなされ、平成4年度決算、平成5年度予算を承認。つづいて事務局の土屋博秀師から、今年改選にあたる役員人事について提案があり、種々意見交換ののち新人事案を承認。懇親会に移り、平成5年3月卒業の新入会員も交えて、世代を越え、母校への思いを語り合った。

大阪支部役員(敬称略)

支部長	田中実道		
副支部長	西端良諦	法本弘文	見城芳行
事務局長	土屋博秀		
会計	玉山順彦		
幹事	藤崎信幸	上田靈宣	岩上匡志
	井上俊章	佐野剛空	西田義範
	中江康明		
監査	北村太道	小西光延	
顧問	小松道圓	中塚榮澄	谷田仁司

出席者(順不同・敬称略)

田中 実道	蓮沼 雅春	西端 良諦
法本 弘文	見城 芳行	土屋 博秀
玉山 順彦	上田 靈宣	中江 康明
宮城洋一郎		

会員消息 □□□□□□□□□□

■計報

名幸考章師(沖縄・昭和3年)平成5年1月30日御逝去。

前島義雄師(島根・昭和18年)平成5年6月28日御逝去。西中国支部副支部長。

鎌田恭鳳師(京都・昭和19年)平成5年4月13日御逝去。

山田栄光師(北海道・昭和20年)平成元年6月19日御逝去。

池田覚邦師(香川・賛助)平成5年5月15日御逝去。

○御結婚

松久(旧姓佐々木)順子氏(平成元年)平成4年11月23日御結婚。京都市在住。

広瀬昌史氏(平成4年)平成5年5月8日御結婚。東京都在住。「八王子同友会」(有料老人ホーム)勤務。

□メッセージ

天野雪城師(岡山・昭和15年)

朴岩葉蓮の花を聚法山
黄金牡丹朝日に映えて寂土土
梅檀の花咲き母校蘇る
松崎隆雄師(広島・昭和22年)

ふくやま美術館講師、NHK福山文化教室講師。洋画家光風会会員として活動している。

児玉玄裕師(岡山・昭和28年)

目下寺院再建工事に取りかかっております。本堂、客殿等全部建て替えますので大事業になりました。同和教育推進会議議長をつとめてもう6年目に入りました。

樋浦良弘師(長野・昭和54年)

宿泊施設を作りました。御利用下さい。

上田靈宣師(大阪・昭和55年)

校史を作る予定はないのでしょうか? 昔のことはだんだんわからなくなっていますので……。

武富祐二氏(大阪・昭和62年)

私は現在セノン管財事業部大阪支社に属しており、ビルメンテナンス(設備監視)の仕事をしております。今度、2種電気工事士の資格を取ろうと思ひ、一生懸命勉強しているところです。

山下俊彦氏(兵庫・昭和62年)

現在、地元の福祉施設に勤務しております。

■住所不明会員（順不同、敬称略）

ご住所等をご存知の方は事務局までご一報下さい

昭和12年	菅 正 夫	昭和54年	樋 口 純 子	〃	森 田 俊 尚
〃	阿 形 良 岱	昭和55年	門 馬 貴 洋	昭和60年	洪 谷 哲 男
昭和19年	安 部 善 重	〃	菊 池 廣 弘	〃	出 倉 勝 彦
昭和20年	武 知 紀三昭	昭和56年	川 口 晴 基	〃	越 智 政 男
〃	問 屋 峰 久	〃	中 尾 彰 彦	昭和61年	堀 江 寛 隆
〃	小笠原 英 二	〃	増 山 一 之	昭和62年	松 尾 力 博
〃	倉 田 守	〃	杉 浦 栄 俊	〃	取 山 和 博
昭和22年	佐 竹 賢 亮	昭和57年	黒 沢 幾 世	〃	守 山 博 敬
〃	竹 田 隆 存	〃	中 川 力	〃	山 本 純 真
昭和23年	三 浦 康 利	〃	西 岡 祐	〃	林 田 修 一
〃	平 井 肇	〃	加 福 一 晃	〃	山 本 観 司
〃	岩 崎 教 海	〃	堀 越 照 晨	昭和63年	和 田 稻 雄
〃	手 塚 震三郎	昭和58年	神 山 美 喜子	平成元年	堀 健 晃
昭和25年	豊 田 実 眼	〃	中 野 智 之	平成2年	今 野 尚 人
〃	湯 浅 勇	〃	高 田 順 仁	〃	渡 辺 寿 敏
昭和40年	三 池 崇 裕	昭和59年	中 越 悟 郎	〃	井 上 昭 健
昭和50年	平 原 豊	〃	名 村 貞 男	平成3年	谷 茂 岡

連絡先 〒601 京都市南区壬生通り八条下る東寺町545

種智院大学同窓会事務局

☎ (075) 681-6513 Fax (075) 681-5651

※『同窓会名簿』作成上の御意見も是非お寄せ下さい。

『同窓会報』第16号 広告募集

—第16号は平成6年1月下旬刊行予定—

- (1) 名刺交換（新年互礼） 9分の1頁、 5,000円
 (2) 一般広告 2分の1頁、 30,000円
 全 頁、 50,000円

お申し込みは、葉書またはFaxにて、下記までお願いします。同窓会の健全なる運営に皆様方の御協力を是非ともお願い申し上げます。

（締切・平成5年12月4日）

申し込み先 〒601 京都市南区壬生通り八条下る東寺町545

種智院大学同窓会事務局

Fax (075) 681-5651

種智院大学同窓会平成4年度決算

〔収入の部〕

平成4年4月1日～平成5年3月31日

(単位：円)

平成4年度予算			平成4年度決算		
科目	金額	備考	金額	備考	
会費	800,000	終身会費 @20,000×28 年会費 @2,000×120	646,000	終身会費@20,000×24 年会費@2,000×83	
懇親会費	300,000	@10,000×30	460,000	10,000×46	
受取利息配当金	350,000	定期預金(300,000) 郵便貯金・普通預金(50,000)	160,941	定期預金(153,600) 郵便貯金・普通預金(7,341)	
雑収入金	220,000	名簿収入金、広告代 総会・懇親会等御祝	227,000	広告代、総会・懇親会お祝い金	
前年度より繰越	4,974,085		4,974,085		
計	6,644,085		6,468,026		

〔支出の部〕

科目	金額	備考	金額	備考	
人件費	50,000	発送アルバイト分	49,900	発送アルバイト分	
総会諸費	120,000	総会諸費用(70,000) 講演料(50,000)	50,000	講演料	
懇親会費	300,000	@10,000×30	550,000	懇親会費	
消耗品費	5,000	事務用品、コピー代	5,800	事務用品、	
印刷製本費	300,000	会報3回分、ハガキ等	265,740	会報2回分、ハガキ等	
通信費	175,000	会報発送費 案内状送付切手代	169,501	会報発送費、案内状送付切手代	
会議費	120,000	幹事会等	73,050	役員会・役員	
慶弔費	50,000		10,000		
旅費交通費	50,000		0		
事業費	200,000	卒業祝賀会補助金・記念品代	68,720	記念品代	
援助費	270,000	支部活動援助金	519,600	支部活動援助金	
雑費	30,000		10,200		
次年度へ繰越	4,974,085		4,695,515		
計	6,644,085		6,468,026		

同窓会の平成4年度の会計が正確に行われていることを認める。

監査氏名 川村俊朝 ㊟
市橋真明 ㊟

種智院大学同窓会平成5年度予算

〔収入の部〕

(単位：円)

科目	金額	備考
会費	700,000	終身会費 @20,000×25 年会費 @2,000×100
懇親会費	400,000	@10,000×40
受取利息配当金	130,000	定期預金(125,000円) 郵便貯金・普通預金(5,000円)
雑収入金	200,000	広告代、総会・懇親会等 お祝い金
前年度より繰越	4,695,515	
計	6,125,515	

〔支出の部〕

人件費	50,000	発送アルバイト分
-----	--------	----------

総会諸費	150,000	総会諸費用(100,000円) 講演料(50,000円)
懇親会費	400,000	@10,000×40
消耗品費	5,000	事務用品、コピー代
印刷製本費	250,000	会報2回分、ハガキ等
通信費	170,000	会報発送費 案内状送付切手代
会議費	50,000	幹事会等
慶弔費	50,000	
旅費交通費	50,000	
事業費	200,000	卒業祝賀会補助金・記念 品代
援助費	270,000	支部活動援助金
雑費	10,000	
次年度へ繰越	4,470,515	
計	6,125,515	

同窓生の皆様のご健勝をお祈り致します。

大本山大覚寺門跡

井上紀生

自坊・神戸市兵庫区北山町
立江寺

大覚寺、中僧正

成羽町町議会議員、総務文教委員長

実相寺住職

田井秀戒

〒七六一〇二

岡山県川上郡成羽町大字下日名釜
電話(〇八六六)四二一三二九八

大学だより

入学式・4月10日(土)午前10時より大学講堂にて挙行。平成5年度、新入学生は128名となり、これにより本学の全学生数は390名(女子56名)となった。

降誕会・6月15日(火)、午前8時30分より行道を開始、東寺御影堂にて般若心経読誦ののち、大学講堂において降誕会法要を、今井圓明学長の導師にて厳修。午後1時30分より京都大学助教授カール・ベッカー先生を迎えて記念講演を開催。題目は『臨死体験について』であった。90余名の学生・一般の方々の参加があり、予定を20分越えるなど、熱のこもった講演となり、質疑応答もなされた。

三時から、20名の学生により托鉢を実施した。これも恒例となり、毎年、学生諸君の熱心な参加ですすめられてきている。今年は、九条通りから十条通りを中心に托鉢を行い、浄財は京都新聞社に寄託された。

コンタクトレンズ専門相談室
阪急高槻

駅前コンタクト



〒569 高槻市城北町2-4-1ファイブプラザ3F ☎(0726)75-8141

- 営業時間/AM11:00~PM7:00
- 定休日/水曜日・祝祭日(日曜日営業)

平成6年度入試要項

募集人員 仏教学科 80名

- 推薦入学試験
 - 一般公募推薦—10名
 - 指定校推薦—10名
 - 特別推薦—20名
- 一般入学試験—約40名
- 社会人入学試験—若干名

試験日程

種 目	出 願 期 間	試 験 日	合格発表日	入学手続締切日
推薦・社会人	11月1日(月)～11月22日(月)	11月30日(火)	12月4日(土)	12月15日(水)
一 次	1月7日(金)～1月28日(金)	2月4日(金)	2月10日(木)	2月21日(月)
二 次	2月15日(火)～3月8日(火)	3月15日(火)	3月19日(土)	3月29日(火)

試験科目・配点・時間

種 目	試 験 科 目	配 点	時 間
推 薦 社会人	基礎学力テスト	150点	90分
	小論文	50	60
一 次 二 次	国語Ⅰ・Ⅱ（古文・漢文を除く）	150	80
	英語Ⅰ・Ⅱ	150	80

※社会人入試は面接も実施します。

出願資格

●推薦入試

高等学校を平成6年3月を卒業見込みの者と平成5年3月卒業の者で、出身学校長の推薦が得られる者。評定平均値3.0以上の者。

(A) 一般公募推薦一併願可

(B) 指定校推薦一専願

本学から指定した高校の出身者。高校宛に通知する。

(C) 特別推薦一専願に限る

仏教、特に密教に積極的な関心を持ち、本学への入学を強く希望し、また入学後の勉学に明確な意志を持つ者。詳細は入試係まで問い合わせのこと。

●社会人入試

高等学校卒業、社会経験を有する入学時満25才以上の者。

問合せ先 種智院大学入試係

〒601 京都市南区壬生通八条下ル東寺町545

TEL (075) 681-6513